

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／社会福祉法人 共愛会



絵・中島 英子

ほら、おはな・・

苦しむ神

(エレミヤ書 第八章二十一節)

理長

福島

勲

私は中学生時代、和歌山県の新宮市ですごしたが、ここに熊野神社がある。その祭神が誰なのか知らないかった。

その後、全国到るところに熊野神社があり、往事の盛んな信仰を知った。

室町時代の熊野權現縁起物語は、印度宮廷で起こった事件として記されている。

千人の女御（尼）のいる中で、一人の觀音信仰者の女性が、みかどの寵を受ける。女性が、みかどの寵を受ける。多くの女御らのねたみを受け深山で首を切られる。首無き女御が生まれてくる子どもに乳を含ませ育てた。これが苦難の物語であるが、養育された子どもが祇園精舎の聖人によって、大王の許に連れてこられて新王となつた。この新王が恐ろしい女ども

こうした物語を十五世紀の日本人が理解しているのであるから、キリスト教の教理も受け入れなくはなかつた、と和辻博士は言つてゐる。

子どものための労苦はわかり、これに涙する者が多くても、罪人のためにわが身を犠牲にしてこれを救うといつた理不尽と思われるキリストの愛に理解は及びがない。事実この点がキリスト教宣教の躓きとなつてゐる。動物学者は、なぜ近親の者たちに対し自己犠牲的愛が強いのかを説明して、自愛遺伝子（Selfish Gene）を親子では $\frac{1}{2}$ 、兄妹では $\frac{1}{2}$ 、いとこで $\frac{1}{8}$ の確率で共有しているという。（竹内久美子・「そんなバカな！」）

だが神の人間への愛は遺伝子

を避けて、日本に飛来して熊野三社の權現となつたというのである。異本で母なる人も甦り日本に来たとある。（和辻哲郎全集第三巻）

スタンドの奥さんはおつりを返しながら「これはとても使い良いんですよ。それにこの梅の花がきれいだし。」と言った。多分どこか旅行の折りにでも買ったものか友だちにおみやげに貰つたものか、いずれにしても大切に使つてゐるらしかつた。

ペーパーウエイト。以前は文鎮で通つていたのだろうが、最

立たず、乱雑さの中にまぎれてしまふくせに、ペーパーウエイントを探してくるのが好きだ。なるべくきれいな形のものを見つけるようとしているし、それを出来るだけ自分の日常生活の中で使おうとしている。

ペーパーウエイト

県立高校美術教諭

中島
睦雄

車のガソリンが空っぽになりかけたので、近くのガソリンスタンドに寄り込んだ。そこでお金を払う段になった時、事務机の上においてあるペーパーホーウエイトが目にとまつた。鉄製の小さな物で、紅梅の花がデザインされていた。思わず、「あっ、これは良いですね。」と言つて手を伸ばし、手にとつてその重さを確かめてしまつた。軽くもなく重くもない、快い重量感であつて、ひんやりとした金属の冷たさも気持ちよかつた。良いデザインであった。

辺は樹文字はない。何い力も余り
限定されず、工芸的なおもしろ
さを狙つたものが多い。したがつ
て旅行先などで、単純で美しい
と思わぬ発見をすることになる。

Nさんの机の上には、双体の
地蔵さまを彫刻した黒い石のペー
パー・ウエイトが置いてある。ここ
れも彼女のお父さんが旅先で買つ
てきてくれたものだと言うが、
きれいに整理された机の上に、
さりげなく置いてあると、一層
美しい。

私は、自分の机の上が常に乱
雑で、ペー・パー・ウエイトが全く目

1994年3月1日 第52号 善を行って隣人を喜ばせよ。

ある。施した業が相手に正しく理解されない。効果が挙がらないといい。人々から評価されないといった場合、私どもの善意の鼓動もなりを潜める。

ましてや、自愛の延長の利潤追求や榮誉や愛という美名に踊らされる行為は、たわいもなく潰え去ってしまう。

「ただキリストを信じることだけでなく、彼のために苦しむことをも賜っている」（ビリピ一一二九）

われわれのために苦しみたもうたキリストのために、苦しむことをも与えられていることを真実に信じ理解するとき、知的に情的に更に意欲的にキリストの故に苦しむ真実が生まれてくる。信仰者のわれわれが、キリストのための苦しみを忘れて、ただ幸いのみ願い、愛の保持者のかのごとく悦に入っているとすれば、甚だしい独善であり、ナルシシスト（うぬぼれや）と言わざるを得ない。

今年は施設開設十年目を迎える記念すべき時の中にあります。このようなとき、本年一月一日から国の制度として発足した大利根町主任児童委員に委嘱されました。（男女各一名）。実は、開設五年目に大利根町社会福利協議会の評議委員に加えられた経緯があり、単なる私個人の出来事を超えた大きな意義を実感している昨今であります。

まず、個人的な想いとしては、施設入所時30名に対する思いと責任から、一気に二千人以上の子どもへと拡大され、その責任の重さを感じ始めています。併せて、光の子どもの家の子どもたちが万一にも不肖事件などを引き起こした際にはこのお役目をお返ししなければ覚悟もしています。いやそれだけで事足りるものでもないと肝に銘じているところです。

次に、施設と地域社会の関連で捉えると、これらの役割を委嘱されるまでに至った歳月を改

めて思わしめられています。昔から「一仕事十年」と言われていることを思い起こします。もちろん単なる時間の長さだけに意味があるのではなく、この間の子どもたちの頑張りや職員の努力を改めて思うものです。

更に、光の子どもの家の養育の着眼点を再確認させられています。そのポイントは地域の子どもとして育つことになります。この間の視点を少し整理してみます。

親の病気、行方不明など家庭養育困難となつた子どもたちにとって、養護施設はいわば「第二の実家」になることが期待されます。

このためには、施設養育の内容がアットホームなものであり、愛情・所属・自己尊敬の心理的 requirement が自然な形で充足されるとが必要不可欠と言えます。光の子どもの家が五名以内の子どもを保母が責任担当し、寝食を共にする家庭的養育につとめて

えています。つまり、施設の誰々と括弧付で捉えることのない配慮が肝要であります。

同時に光の子どもの家の子どもたちが地域に住む一人一人として位置づけられ、地域社会で育つことが必要不可欠であります。学校の友人関係や子ども会活動参加などが奨励されるところであります。

したがって、一方で親元への家庭引き取りを努力しつつ、一回限りの人生の多感な少年青年期の育ちが、しっかりと地域社会に根を張ったものになることが求められるところです。それは、恐らく、彼らにとつて光の子どもの家が第二の故郷になると言えるからであります。この地と光の子どもの家が神の約束の地となることを祈るものであります。

「あなたは生まれ故郷父の家を離れて、私が示す地に行きなさい。地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る。」

つけたもので、割合氣に入つてゐる。そしてそのようなものはただ机の上に置くだけで何となくうれしいものだ。時々出したり、まるで子どもの玩具同然だ。

京都で見つけてきたいくつかのものは、さすがに貴族文化の流れを受けてか、洗練されてい。剥げ落ちたような古風な金色をもつ小さい小島、無理のない形、鋳造の過程で出来たバリをヤスリですり落としたすじが見える。

細長いやつは緑青色の柳に蛙。多分小野道風の蛙だろう。鉄という素材の故か極めて細かい部分は作り出されていない。

もう一本の細長いのは横笛である。これには真ん中に雅やかな朱色の紐がついている。つや消しの黒い笛は貴族の持ち物か。京都で買ったものであつて見れば、もしかしたら牛若丸の懷にあつたものと思われる。

その他戸棚の中にはいくつかのペーパーエイトがゴロゴロしているが、ただの石ころのものもある。若いNさんが川で拾つてきてくれた五十個ほどの石ころの中から、良い形のものを選

んでみたのだ。これも素晴らしい、捨てがたい味があつて京都のセンスと対極にある素朴なものだ。何枚かの書類の上にこれを載せていると、おそらくだれも気付かないかもしれない美しさを、私だけが見ているような気がする。柔らかい曲面のみで包まれた砂岩のペーパーエイトは、それだけで小さい抽象彫刻といえよう。

丸い石とは対照的に、荒々しくぶっかけた石塊もある。富士山の山塊を形づくりていた一塊である。赤茶けた部分、薄紫の部分、噴火によつて焼け焦げたような部分を持つ小さな不定形だ。Sさんが拾つて俳句の〇先生が自筆の句を書いてくれた。

『白糸の滝のほづれのよじれかな』

私は時々手にとつて眺めてみる。重さも良い。贅沢なペーパーウエイトだ。茄子よりも、胡瓜よりも、蛙よりも笛よりも良い。もち論これは工芸品ではない。

私はこの石塊を、ペーパーエイトとしてではなく、私の机の上に置くための卓上句碑にしてみようかと思い始めている。

説では説明がつくまい。
さて、私どもも人道的愛の美しさを知つてはいる。

地域で育つ

施設長
今関
公雄

いるネライはこの点にあります。

バザーへご協力のお願い

徹底的な節約をしながらも、子どもたちにさもしい思いをさせないように配慮しながら予算の執行に努めて参りましたが、社会福祉法人光の子どもの家の一九九三年度の決算は約三五〇万円の収入の欠損が見込まれています。当然、九四年度の予算の策定に当たり職員の一名減を見込まなければならなかつたのですが、子どもたちの必要で最低限度の養育の手だてをするためには、経験を積んだ職員の退職だけでも大きな痛手であり、とても減員の出来るような状況はありませんでした。

また、職員の採用事務は昨年十月に行っており、後半の収入の伸びに期待を掛けて欠員分の補充を決意しました。そこで、五月下旬に職員確保のためのバザーをしてその資金の補いをつけたいと計画しております。

いつもいつもお願ひばかりで申し訳ありませんが、ご協力を

お願いいたします。

・ 蔵出し品（衣料はクリーニングしたすぐ使用するもの）

・ まとまれば半径五〇ぐらいの範囲ならばいときにお伺いいたします。ご一報下さい。

二、模擬店のようなものも考えています。当口のお手伝いも含め、ヴォランティアをお願いします。ご連絡をお待ちします

連絡先

埼玉県北埼玉郡大利根町砂原二七七

光の子どもの家気付

電話 ○四八〇一七二一三八八三

FAX ○四八〇一七二一六六四九

主催 光の子どもの家の職員確保バザー実行委員会

ヴォランティアグループ『しづくの会』

俳句結社『浮野』

光の中で

佐藤家

時は確実に過ぎ、もう今年度も終わろうとしている。中学を卒業する逸郎にとって大切な一年であった。昨年四月中旬の最終年は、逸郎の進路についての意思を確認することから始まった。就職か、高校へも定時制か（勤いて）、ここから全日制か、と、いくつかの選択肢の中から、全日制高校へ進学したいと意志表示し、それに向かって努力していくことを確認した。しかし、その後、「受験生の生活」とは言い難い生活が展開し、これから的生活を切り開いていく系団となる意識形成の手助けが出来ないでいた。

いつも私の関わりは後手になり、それほど学習について関わっていなかつたし、情報収集も不十分だった。やっと学校の教師と連絡を取り始めたら、既に逸郎とはすれ違が生じていた。志望校の選定という極めて重要な件についても逸郎は私たちに相談できないでいたのである。本当に申し訳ない限りである。

志望校を決定してからも、受験勉強の態勢が十分と言えず、ついに一月下旬から、家とは少し離れた管理棟の理事長室で、職員と一緒に泊まり込んでの合宿態勢で臨むことになった。食事、入浴の時だけが家に帰れる時間で、勉強時間は飛躍的に増えたのである。

学校からは、滑りどめに専門学校を受けるならばいいのだが、と、受験する高校について懸念を表明され、一発勝負にかけていたことでもあって、逸郎の学習に賭ける意欲をあおり立てた。しかし、どうしてそのような何かに賭けていくような生活の一部分でも家中では表現されないのだろうかと思うのである。いくら受験とは言つても自主的な取り組みは大人でもなかなか出来ないことは知っている。振り返れば、ああもすれば、こうもすればと言う愚痴のような悔恨が残るばかりだ。確実に受験の日はやってきて、そしてその発表の日がやってきた。見事に彼は合格し、次のハードルをめざしてスタートに立った。 プリティ・祐子・池田

原田家日記

竹花 信恵

子どもたちの季節

仙道家

一月十七日。PTAの会合から帰ると、ダイニングルームから、テレビが消えていた。「私がケンカしちゃって・・擢也と・・。」と、連日テレビドラマに夢中だった中二の光子がボソボソ話す。激しいチャンネル争いの末、それを目撃した大人に撤去される。テレビも、ゲームも、マンガも、楽しいものだが心を豊かにする使い方をするには、至難の業のようだ。なければならない何とかなるじゃない、と感心したとたん、元に戻る。テレビを返してもらう「交渉」を本人たちが進めた結果だ。

二月三日。節分。「夕食中にオニが来る」と、誰が決めたわけではないが、今までの体験でそう思いこむ子どもたち。

豆を食卓に並べる。落ち着いて食事がとれない多音音。背後を確かめ、ドアを見つめ、物音にふりかかる。とともに玄関から登場した赤オニに、興奮して豆を投げる。泣き叫んだのは一昨年までだった。

二月七日。「あの、心配があるんだけど、あのさ、『しょくいん』つてさ、どうして、おでかけとかあるのかな。」

出来的るだけ普通の家でありたいと願い、「職員」も「施設」も不要な言葉だつたし、「公休」は「お出かけ」だった。八歳の福子の質問に、ドキッとしたひととき。

二月九日。学校貯金の準備。あれはあるだけ遣ってしまう潔が、小遣いの大半を貯金すると言い出した。思わず、「いいの?」とききました。「だいじょうぶ、だつてさ、この家をでるときに二十万ぐらいあつたらいいって話してたでしょ。」

社会にでる日を目前にして、貯蓄の考え方られない悟に、住むところの確保などの現実のきびしさを話していたのを十二歳の潔が自分のものとしていた。痛々しさよりも、力強さを感じた潔の表情に気が引き締まる。

「寒いでしょ。」と言つて私の膝の上にジャンバーをすりと掛けた体育館へ駆けていく高雄の姿が、とてもいとおしく思えた。

「善意」と「差別」。養護施設や収容施設が抱える長年にわたる課題。この二者は一見、相反するようですが、実は相関関係があり、長い時間を経ても「眞実」は見えてこない。

高雄は、素直で明るくてやさしくて、弱い子の味方になる子である。而倒くさがつてジャンバーを着ていかなかつたことをとても後悔していた。でも、○○さんにお礼言つといてね、と、○○さんの「善意」に対する感謝は忘れない。そんな高雄の優しい心が痛んだ出来事だった。

日誌

抄

十二月一日

一九九四年正月まで

- 十二月二日 栗原忠氏よりいつものお励まし。ありがとう。
- 三日 東京電力のヴァランティアグループ『はむこ会』埼玉支部よりたくさんの食品、雑貨など日用品を。感謝。
- 六日 食堂の大きな欅の枝で作ったクリンツに蠟燭が二つ灯いて第二アドヴェント。礼拝を捧げて楽しい夕食会。クリーキーもふたついただいて。
- 十二日 先月北海道から子どもたちで暮らしながら生活をたて直すことになった大阪兄妹の母より荷物。いよいよ。
- 第三アドヴェント。クリーキーが三つ。
- 十三日 埼玉県内とその周辺に住む子どもの家族を尋ね、お正月帰省の可能性を探り整える家庭訪問開始。
- 十四日 ソフィア歯科よりエレクトーンのご寄贈。感謝。
- 十五日 病気の母を気遣い、高山姫の成長を心から喜び応援していた父が突然の事故死。
- 十七日 高山の父通夜。十八日

- 二十日 江森ヘヤーサロンより告別式。しめやかに。
- 二十一日 東洋英和女学院より手作りのクリスマスカードとプレゼントが。感謝。
- 諸貫香恵子さんのチャリティコンサートのご招待。収益金から沢山のご寄付を。感謝。
- 二二日 東洋英和女学院より手作りのクリスマスカードとプレゼントが。感謝。
- 町内東地区婦人会よりお餅代として沢山のご寄付を、籠宮会長と役員の方々が。感謝。
- 二三日 東洋英和女学院より手作りのクリスマスカードとプレゼントが。感謝。
- 二四日 クリスマスイヴ。楽しい夕食会を食堂でみんなと。そして、讃美と聖書朗読、職員からのメッセージと子どもたちの祈りがあやなしてファンタスティックで感動的なキャンドルサーヴィス。静かに眠りに落ちる頃理事長夫人が手作りの衣装に身を包み、一人一人に心を込めて準備したプレゼントの袋をかついだサンタクロースが寝顔を優しくのぞきながら枕元へ。夢のような現実。
- 二五日 クリスマス。日頃子どもたちがお世話をなっている学校の先生、ヴァランティアの方々、教会学校の先生や牧師先生、お友達やご家族も沢山お招きして、イエスさまの誕生のいきさつを聖書朗読と讃美、今年から大人も歌いながらの振り付けでのページェントを礼拝として捧げる。そして楽しいお祝いの会。ゲームや交換プレゼントなど日々頃からステキな大野先生やメガミの神田先生も感動の一夕。

- 二八日 お餅つき。頗りなかつた子どもたちも今年は大躍進で力の落ちた大人を助ける。
- 二九日 年越。剣道は越年稽古。一九九四年一月一日 十時。全職員と残っている子どもたちで元旦礼拝と第一食をお祝いに落ちる頃理事長夫人と挨拶を交わし、嬉しいお年玉を。このために心をお寄せ下さった加須市の梅沢三保氏を始め多くの方々に感謝を込めてこの年の祝福を祈る。
- こんな風に年を送り又迎えました。この年もよろしく。(くら)

反射光

梅の花が散ります☆三・四月は年度替り

- で落ち着きませんが、子どもたちは通知表をもらい少しきまり悪い思いさえ済めば後は宿題のない春休みです☆それにしても子どもたちの成長は私たちの想像をはるかに超えて後ろ姿さえ見失ってしまいます。そうになります☆高校を卒業して社会に出たための自立を援助する厚生省の新しい事業によって、町内旗井の塚本さんのご理解を得てアパートをお借りし、子どもたちと普通の生活を経験するプロジェクトを四月から始めます☆アパート探しの途中、「光の子どもたちの家」の「・・・」と挨拶をしたとたん元教師という家主さんに嫌な顔をされ、「差別」もまざまざと☆この春も高校生が一人誕生します☆生まれて世の中に出るまでにしなければならないことを、生まれたことを喜ぶことや、美しいものに感動することなど、また怒ることでも失敗でもきちんと経験し、それを積み上げ、知恵や力にして欲しいと願いながらこの年度も励みます。(哲)